

「(仮称) 岐阜市未来ビジョンにおける未来都市像検討に向けた基本的方向の整理 (案)」
 に対するパブリックコメント手続でいただいた意見一覧

1 実施結果

	提出数 (通)	意見数 (件)
持参	3	5
郵送	0	0
ファックス	0	0
電子メール	3	20
合計	6	25

※意見募集期間：平成 29 年 11 月 10 日 (金) ～12 月 11 日 (月)

※案の公表場所：企画部総合政策課、市政情報コーナー、市民活動交流センター、各コミュニティセンター (8 か所)

2 いただいたご意見の概要

項目	概要
1	全体として抽象的な表現が多い。
2	個別部門の基本計画との連携・総合性を欠いている。
3	現行の総合計画や都市計画マスタープランでは、「多様な地域核のある集約型の都市構造」を目指すとしており、立地適正化計画、公共施設等総合管理計画などとの整合性は確保されるのか。
4	現行の総合計画では、「地域別ビジョン」を各地区の住民とのワークショップを経て作っていた。今回のワークショップでは、参加者の意見に地域特性が見られたが、地域別にどのような取組みをするのか不明である。
5	まちづくり協議会の取組がさらにどのようになるか、住民、自治会の関心も高いはずだと思う。
6	P 6～7 の成果指標は、市民アンケートに基づく主観的な評価と客観的な数値目標を分けるべき。主観的な評価はどこまでも高まっていくものではない。
7	P 7 の「基準値を上回る又は同等」については、「上回る」と「同等」を分けて掲載すべき。
8	シビックプライドを高めることが、まちづくりへの参加を促し、定住、移住につながる。教育やひとづくりの面で、子どもたちや市民の関わりをどのように高めていくのか、具体的に書き込んでほしい。
9	柳ヶ瀬でのサンデービルディングマーケット、300 万人を超える来場者があるメディアコスモスなどにぎわいがつくりだされ、観光では、長良川おんぱくが展開されており、市民活動などの様子をコラムや写真でも盛り込み、元気な岐阜市を紹介すべき。
10	岐阜市は典型的な車社会ですが、近年、運転が困難な人が増加しているため、今後のまちづくりにあたっては、自家用車に依存することなく、歩きや、コミバスなどを利用して生活できる、日常的な買い物や医療が身近に感じられるまちにしていきたい。
11	人材を人財と位置づけ、子供がユニークな考えを持ち、それを実践できるような、知識と実行性が身に付く教育が受けられるまちを目指してはどうか。

1 2	経済格差を少なくするため、所得にかかわらず、誰もが大学まで進学できるまちを目指してはどうか。
1 3	過去の失敗談を教材とし、失敗しても再挑戦する意欲を学ぶ「失敗学」の講義が継続的に受けられる仕組みをつくってはどうか。
1 4	生涯健康に生活できるよう、さまざまな健康診断（定期健診、メンタルヘルスの診断を含む）が気軽に受けられるまちを目指してどうか。
1 5	自分の就きたい職業へのさまざま教育が受けられ、そのスキルを活かせる仕事があるまちを目指してはどうか。
1 6	シャッター通りの空き店舗をチャレンジ精神あふれる若者等に提供し、産業や中心市街地が未来に向かって活性化するまちを目指してはどうか。
1 7	地域の医療機関がコミュニティバスで繋がり、岐阜大学付属病院などが路線バスで繋がるなど、受診・通院の利便性が高まったまちを目指してはどうか。
1 8	ひとづくりはすべての基礎となるため、特に教育分野について、引き続き、重点的に実施してほしい。
1 9	岐阜市では安心して子育てができ、医療が負担なく受けることができるが、今後も、引き続き、安心して子育てができる環境づくりを推し進めてほしい。
2 0	コミュニティバスの充実など、高齢化による日用品や食料品等の買い出しに係る負担を減らしてほしい。
2 1	様々な行政サービスにおいて、積極的にA I等を導入し行政サービスの向上を図ってほしい。
2 2	行政には税金を無駄なく有効活用してほしい。例えば、無計画に様々な施設等を作ったり、投資したりするのではなく、限られた予算の中で、市民に負担をかけることなく有効に活用してもらいたい。
2 3	市民と行政が一丸となって課題に対応する、本当の意味での連携、協働ができていないため、行政課題として掲載すべき。
2 4	高齢者が培ってきた経験や知恵を活かし、社会や地域に貢献することはますます重要になってくると思うが、この行政課題の視点は、基本的方向①のみでの記載であり、②、③にも課題として掲載すべき。
2 5	今後の具体的な重要施策、基本施策などもパブコメを行い、都市像の実現に向けた事業を行っていただきたい。